SQS-SE-09-0119

取扱説明書

JQA-QM8678

スーパーフォグヒューミディティ

SFH-100/300

R00　2010/1

このたびはスーパーフォグヒューミディティを

お買い上げいただき誠にありがとうございます。

ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本製品の性格、

性能を十分ご理解の上、適切な取り扱いと保守をしていただき、

いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願い申し上げます。

なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

ー目次ー

安全に使用していただくために・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2.3.4.5

1．システム構成

1.1．基本接続図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
1.2．各部の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-8
1.3．コントロールパネル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
1.5．加湿ユニット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

2．操作手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

3．トラブルシューティング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12-14

4．メンテナンス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

6．プログラムの設定変更・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16-22

7．加湿ユニット　テクニカルデータ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

8．ＵＶランプ

8.1．ディスプレイの表示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
8.2．ＵＶランプを交換する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

無料修理規定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

安全に使用していただくために

本製品は、本書に記載した使用方法に従ってお使いいただく限り、お客様には十分満足いただけるものと信じております。
本書に従わなかった場合、重大な事故の原因になります。

本書中、および本製品に貼付した警告表示で使用している安全標識とその意味はつぎのとおりです。

⚠危険	誤った取扱いをした時に、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が高いものを示す内容です。
⚠警告	誤った取扱いをした時に、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	誤った取扱いをした時に、使用者が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容です。

●本書中で ⚠危険 ⚠警告 が付いた記載事項は、取扱い上特に重要な注意事項です。
注意を怠った場合には、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が高いので必ずお守りください。

●なお、⚠注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので　必ず守ってください。

当社は、あらゆる環境下における運転・点検・整備のすべての危険を予測することはできません。
したがって、本書や当製品に明記されている警告は、安全のすべてを網羅したものでは、ありません。
本書に書かれていない運転・点検・整備を行った場合、安全に対する配慮が必要です。
取扱店とよくご相談ください。

⚠危険

- 本機は非常に高い圧力水を発生しますので絶対に人、動物、自分の身体に向けて噴射しないでください。このフォグシステムは業務用です。すべての危険、警告、注意事項をご確認の上、ご使用ください。
- 高圧水により、人体が負傷した場合、思わぬ事態になっている事が有りますので、早急に医学的処置を必ず行ってください。
- 高所で作業する場合、足場をしっかりと固定して落下防止対策を行い、安全に作業してください。
- 本機は水平な場所に設置し、動き出さないような措置をしてください。床面のしっかりした場所で、建物や、設備から１m以上離して使用してください。
- 本機のまわりに引火物を置かないで下さい。また、引火物が充満するような場所で使用しないでください。
- 降雨や雷鳴時は屋外での作業には使用しないでください。感電や落雷の危険があります。
- 本機を使用中、異常を感じたら直ちに機械の使用を中止してください。
- 本機に水や油などがかからないようにしてください。かかった時は乾いた布でよく拭き、十分に乾燥させてください。
- 回転部分のカバー類を取り外したまま絶対に使用しないでください。
- 運転中は回転部分に絶対に近づかないようにしてください。冷却ファン、ベルト、プーリーなどの回転部分に手や身体、衣服などが巻込まれて、けがをするおそれがあります。
- 本機は指定の個所で吊り上げて下さい。指定以外の個所で吊ると本機の落下につながり大変危険です。
- 本機のすべての部材は高圧力に耐える規格品を使用しておりますので、メーカー純正部品を使用してください。改造は絶対にしないでください。又、本機付属品は、磨耗や破損等が認められる場合には、直ちに当社販売店まで相談してください。

⚠警告

- 過労、病気、薬物の影響のある時、飲酒時、妊娠時は使用しないでください。
- フォグノズル、フォグチューブ、エンドプラグ及び吐出ホースなどの接続はゆるんだり、外れたりすることのないように確実に接続して下さい。
- 作業中は、高圧ホースを引っ張らないでください。
- 高層建物でホースを垂直にはわす場合は、万一ホースの接続が外れても、ホースが落下しないように中間でホースを固定して下さい。
- フォグノズルの前方 1m 以内に人が入らないようにしてください。

⚠注意

- 作業中は、フォグシステムのまわりをよく見て安全を確認してください。
- 吐出された水を飲用などに用いないでください。
- 衛生上、必ず水道水を使用してください。またゴミ等を吸いますと、故障の原因となり、本機の能力の低下及び損傷につながりますので注意してください。
- 工業用水、井戸水、海水など不純物の混入した水を使用すると故障の原因になります。
- 洗剤、化学薬品等は絶対に使用しないでください。
- 本機使用の推奨温度は 0℃～40℃までです。吸水温度は最高 40℃までです。
- 圧力は、出荷時に規定圧力に調整していますので圧力調整はしないでください。
- 冬期、凍結の恐れのある場合は必ず水抜きの作業を行ってください。ポンプが凍結しますと重大な故障の原因となります。0℃以下になる地域では原動機を始動させて高圧ポンプ及び配管ほか付属品に不凍液を吸水させて保管してください。使用時は水道水を通水し不凍液を完全に除去してください。
- 冬期、水抜きを忘れ、凍結をしていると思われるときは、ぬるま湯等で高圧ポンプ及び配管ほか付属品の氷を溶かしてからご使用ください。むりに原動機を起動させますと故障の原因となりますので注意してください。
- 空運転は絶対にしないでください。通常始動後約 10 秒程度で吸水をします。それ以上(最大 20 秒間)たっても吸水しない場合は異常です。運転を中止して原因を調べてください。
- 本機の点検、整備、調整を行う場合必ず原動機を停止させ圧力を抜いた後に熱部の冷却等を確認し安全に作業を行ってください。
- 日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合がある状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機が故障する原因となります。

アスベストや危険粉塵を含む環境や、放射線に被曝した恐れのある環境等で使用もしくは保管された機械は、修理者の健康を害する恐れがある為、修理はお受けできません。

⚠注意

横を向いているファンを正面に向ける場合は、無理に動かさないで首振り運転をさせて戻してください。

無理に動かすと内部部品が破損する場合があります。

⚠危険

- 一次側配線は、有資格者（電気工事士）が行ってください。
- 必ずアース線（緑色又は黄/緑）を接地してください。（電気設備技術基準　第 18～28 条により接地工事を行ってください。）
- アース線をガス管に接続しないでください。火災、爆発の原因になります。
- ケーブルを踏んだりひっぱったり、上に物をのせたりせず大切に扱ってください。また、加工しないでください。火災、感電の原因になります。
- ケーブルが損傷している場合は、そのまま使用しないでください。
- 本機や通電部分（各種装置、ケーブル、コンセントなど）に、高圧水がかからないようにしてください。また、濡れた手で通電部分をさわらないでください。
- 電源が切られていない状態で、点検、整備をしないでください。感電のおそれがあり、非常に危険です。必ず本機スイッチを切(OFF)にし、さらに元電源を切ってから作業してください。

⚠警告

- エンジン溶接機など正弦波でない電源は、本機のタイマーや電子機器を焼損させますので使用しないでください。
- 昇圧器などのトランス類は使用しないでください。故障や発火、発熱、焼損の原因になります。
- 運転中、および停止直後はモータ本体や、周辺が熱くなっていますから、手や肌が触れないようにしてください。
- 専用の漏電遮断器を必ず取り付けてください。
- スイッチ、又は電磁開閉器周りのカバーは、外さないでください。外す時は電源を切り、さらに元電源を切ってください。

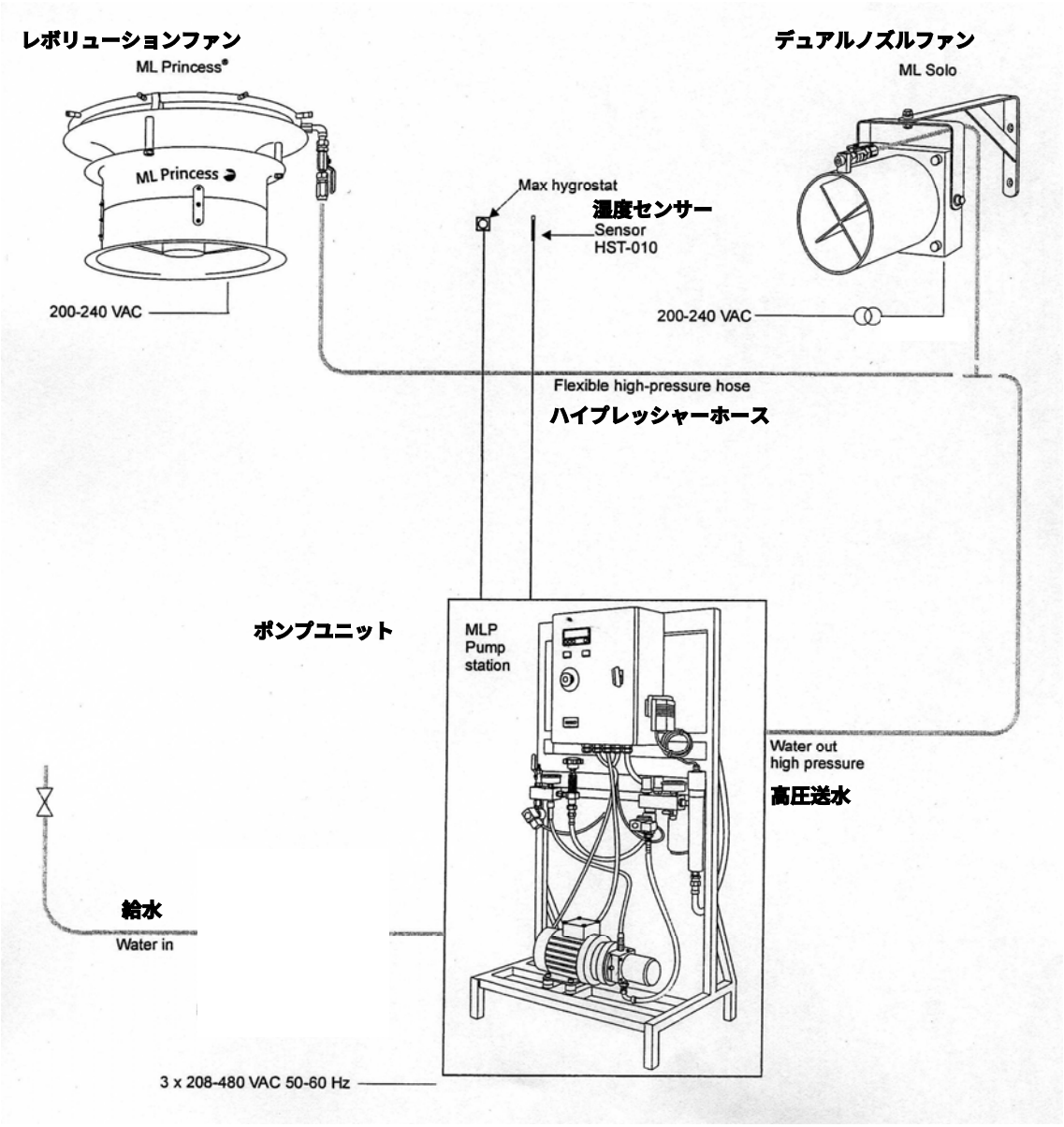
⚠注意

- 運転中、停電または故障などで電源が切れた時は、本機のスイッチを必ず切(OFF)にしてください。
- 指定の電圧・周波数で使用してください。電気部品の損傷につながります。

1. システム構成

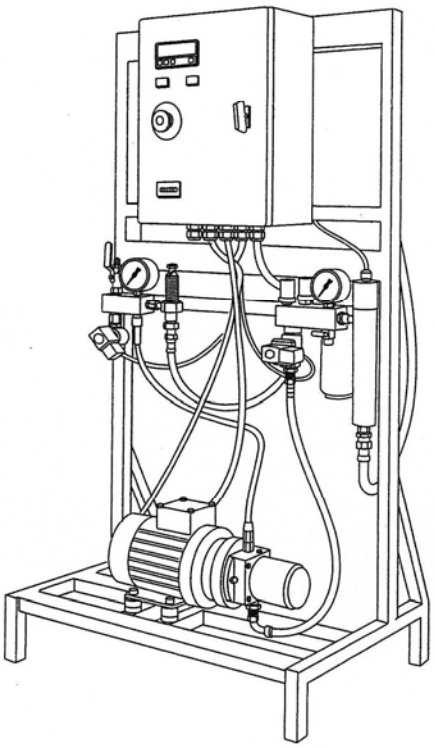
1.1. 基本接続図

1.1.1. SS タイプ

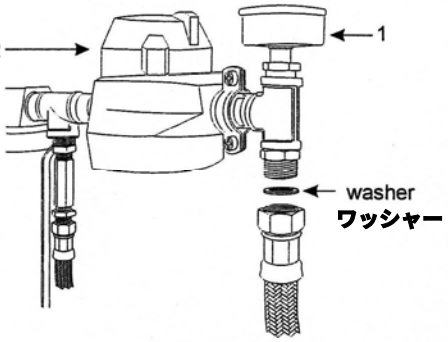


1.2. 各部の名称

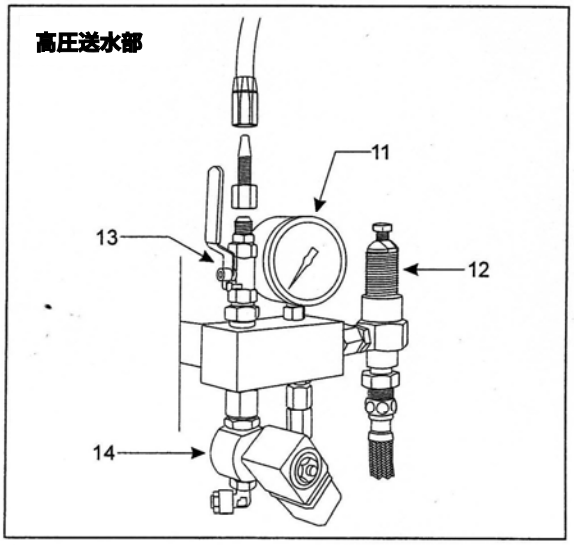
ポンプユニット



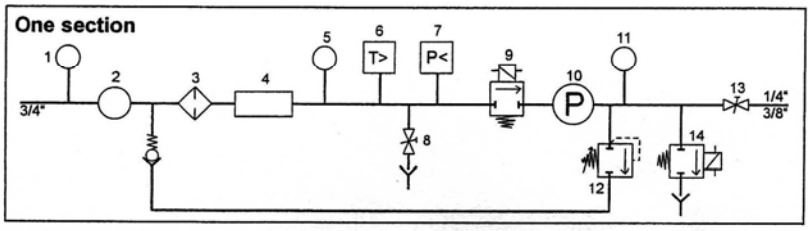
給水部



高圧送水部



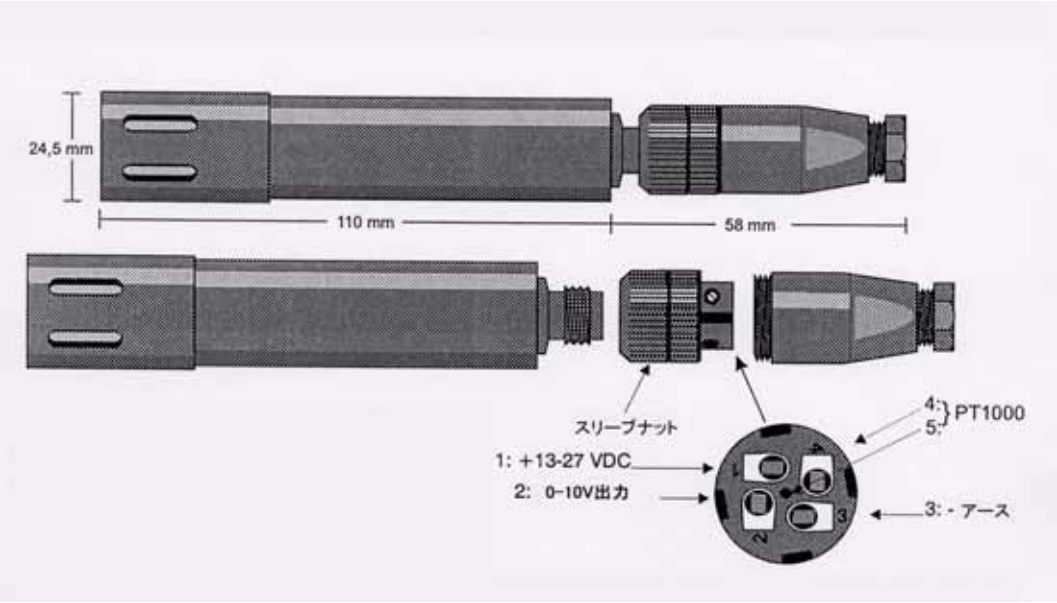
(上)1 セクション、(下) 複数セクション



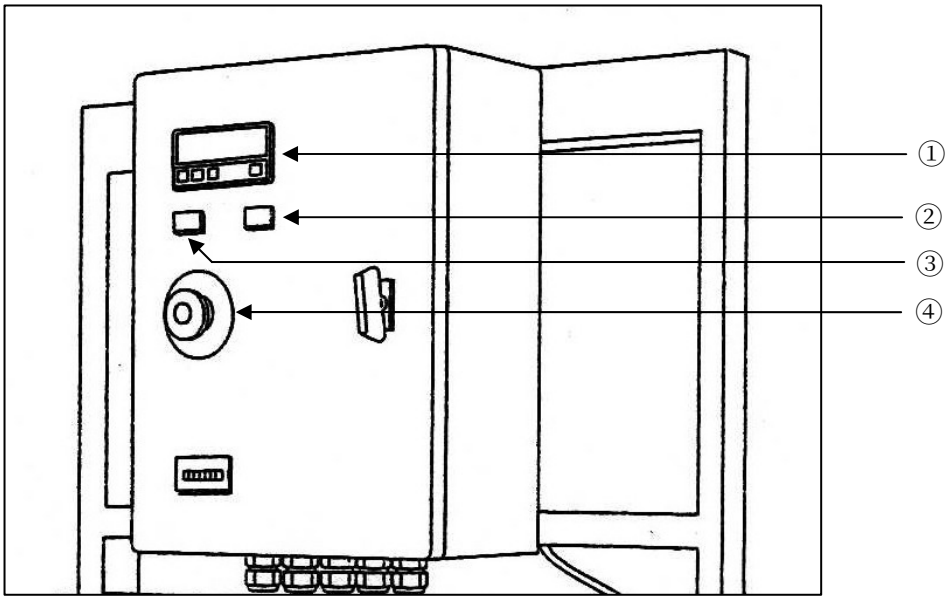
1. **圧力計** 0〜10 bar
2. **量水計**
3. 1 **ミクロンフィルター**
4. UV **ライト**
5. **圧力計** 0〜10 bar
6. **サーモスタット**
7. **圧力スイッチ**
8. **テストタップ**
9. **オン・オフバルブ**
10. **ポンプ**
11. **圧力計**
12. **プレッシャーコントローラー**
13. **ボールバルブ**
14. **圧力リリースバルブ**

湿度センサー

室内の温度、湿度を感知します。



1.3. コントロールパネル



① ディスプレイ:

室内の湿度、異常、設定値などを表示します。

② スタート／リセットボタン:

システムが異常を検知すると、リセットボタンが点灯します。トラブルを解決した後リセットボタンを押すと運転が再開できます。

③ 電源スイッチ:

ＯＮ・ＯＦＦの操作でシステムを起動または停止させます。

④ 非常ボタン:

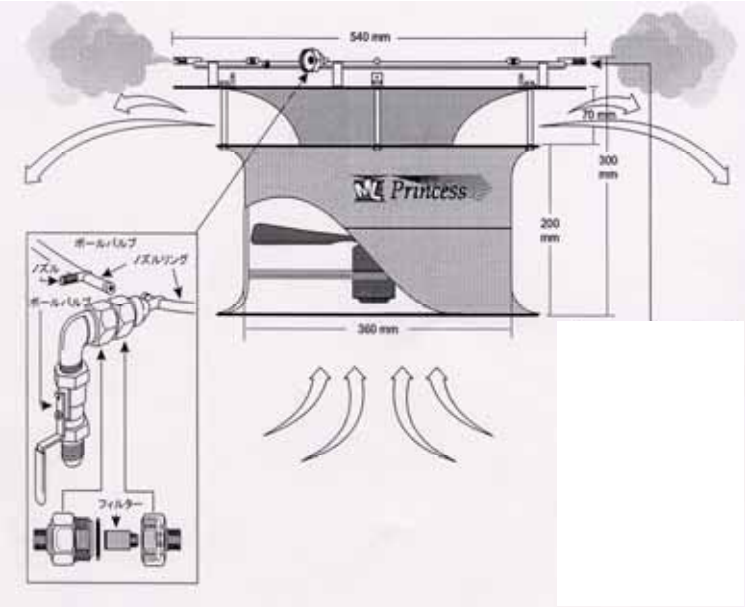
非常ボタンを押すと、システムを緊急停止することができます。解除したい場合は、ボタン（ノブ）を右に回してください。

非常ボタンはトラブル、非常時以外は使用しないで下さい。

1.5. 加湿ユニット

i)レボリューションファン：

レボリューションファンは、ノズルリング、8 個のノズルとファンで構成されており、加湿量がたくさん必要な場所での加湿に適しています。またブラインドノズルを使用することによって噴霧部分を 1～8 箇所まで変更可能です。水は高圧ポンプによって送られ、細かい水の微粒子になり、送風ファンによって散布され、室内全体を加湿します。



ii) ツインノズルファン：

ツインノズルファンは、天井が低い部屋や、必要な加湿量が比較的少ない部屋の加湿に適しています。1 ユニットにつきノズルが 2 つ付いており、その加湿量は約 5.0ℓ/ｈです。送風ファンによってノズルから噴霧された水の微粒子を室内全体に送ります。

2. **操作手順**

1) 給水バルブを開にして下さい。水道からゆっくり給水して下さい。

2) 電源スイッチを **"ON"** の方向に回して下さい。電源スイッチ **"ON"** 時にスタート／リセットボタンを押して下さい。加湿ユニットから水の微粒子が噴霧されます。

3) 希望湿度を設定してください。湿度は 20%～60%まで設定可能です。

4) 運転終了時は電源スイッチを **"OFF"** にして噴霧を終了させて下さい。給水バルブを閉にして下さい。

****

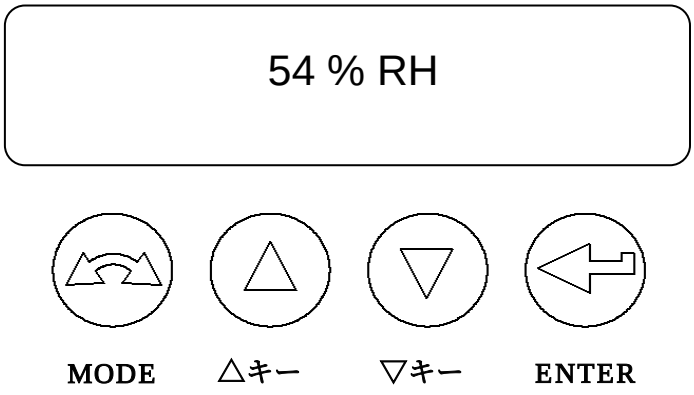
希望湿度の設定方法

1) **MODE**（⇔）を押すとセットポイント設定画面が表示されます。

2) △または▽**キー**を押して希望の湿度に設定します。

3) 希望湿度設定値に数値を合わせたら **ENTER**（←）を押して設定終了です。

【 ディスプレイ 】



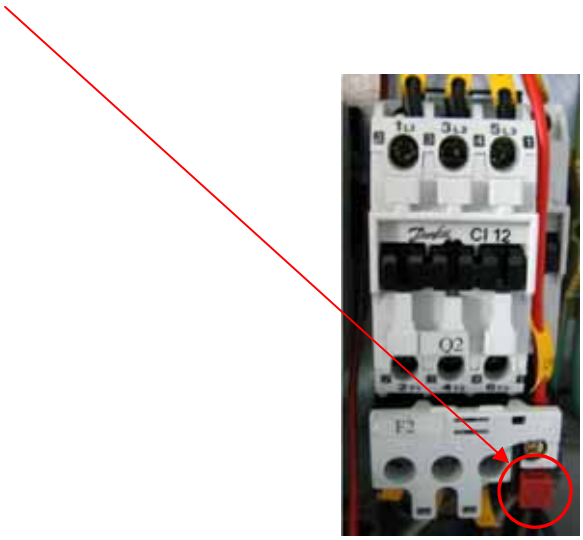
3. トラブルシューティング

	トラブルの内容	原因	対策
システムの運転	システムが作動しない。	室内の湿度が希望設定値を越えている。	室内の湿度が下がるまで待ってください。システムを作動させたい場合は、設定湿度を上げてください。
		電源が"OFF"になっている。	電源のスイッチを確認してください。
	アラームランプが点灯している。	室内の湿度が高すぎる為、マックスハイグロスタットが働いている。	室内の湿度が下がるのを待ってリセットボタンを押してください。 マックスハイグロスタットの設定値が低すぎる場合は、カバーをはずし、設定値をあげてください。
ポンプ	システムのディスプレイには"ON"または**ポンプのマーク**が表示されているが、ポンプが運転しない。	ポンプへの電源供給が遮断されている。	コントロールボックス内のサーマル復帰スイッチを押してください。
	ポンプの吐出部の水圧が不安定。または騒音レベルが高い。	ポンプ内に空気が含まれている。	送水部のホースを取り外したままシステムを作動させてポンプの空気を抜いてください。ホースから水が勢いよく噴出しますのでバケツをご用意ください。

	トラブルの内容	原因	対策
エラー表示	"-Pr"または蛇口のマーク	水圧が不十分である。	給水の圧力が0.5bar以上であるか確認してください。
		フィルターが目詰まりを起こしている。	圧力計にてフィルター通過後の圧力が 0.5bar 以上であるか確認してください。それより低い場合は、フィルターを交換してください。
	"-Pr"または℃のマーク	ポンプへの給水部分の水温が47℃を超えている。	水の流量が不十分な為、ポンプがオーバーヒートしている可能性があります。各バルブが開いているか確認してください。
	"－EE"	湿度センサーが室内の湿度を20%以下と感知している。	室内の湿度が 20%以下である可能性があります。コントロールユニットのスイッチを 1 回切って再び "ON" にして下さい。これによって湿度測定範囲を最初の 10 分間最低 5%から検知できるようになります。
		センサーが故障している。	センサーを交換して下さい。
	"EE"	湿度センサーが室内の湿度を80%以上と感知している。	室内の湿度が下がるまで待ってください。
		センサーが故障している。	センサーを交換して下さい。
ノズルからの水滴落ち	システムが停止したとき、ノズルから水滴が落ちる。	圧力リリースバルブが損傷していて開かない。	コイルが損傷している可能性が有ります。コイルを交換してください。 電源からコイルまで検査して下さい。 バルブが損傷している可能性が有ります。バルブを交換して下さい。

	トラブルの内容	原因	対策
ノズルからの水滴落ち	システムが停止したとき、ノズルから水滴が落ちる。	ホース内に空気が含まれている。	加湿ユニットのノズルを 1 つ取り外し、システムを作動させて空気を抜いて下さい。取り外したノズル部から勢いよく水が噴出しますのでバケツをご用意下さい。
	停止後約 30 秒間、ノズルから水滴が落ちる。	電磁弁が故障している。	電磁弁を交換してください。
	システム作動中に加湿ユニットから水が落ちる。	加湿ユニットのファンのエアー容量が少ない。	ファンとワイヤーが接触不良を起こしている可能性があります。確認して下さい。ファンが故障している可能性があります。ファンを交換して下さい。

> **サーマル復帰スイッチ**



> **トラブルシューティングに従って対処した後も状態が改善されない場合は弊社までご連絡ください。**

4. メンテナンス

フィルター：

ポンプが稼動している時の水圧を時々記録して、フィルターの状態を確認して下さい。水圧が不安定になった時がフィルターを交換する際の目安になります。

ハイプレッシャーポンプ：

高圧ポンプのオーバーヒートを避ける為にモーター付近のごみをふき取って下さい。

弊社は、2000 時間（または 2 年）毎のポンプの点検またはメンテナンスを推奨いたしております。ご希望のお客様は弊社までご連絡ください。

UV ランプ：

UV ランプは 9000 時間または 1 年を目安に交換して下さい。長期間交換せずに使用すると UV ランプの能力が低下し、十分な殺菌作用が得られなくなる可能性があります。

送風ファン：

ファン部分はほこり等が蓄積しないよう、きれいに保ってください。

ノズル：

定期的にノズルを点検し正しく機能しているか確認して下さい。ノズルが目詰まりを起こした場合には、超音波洗浄器で洗浄するか、必要であれば交換して下さい。使用される水にミネラル分が多く含まれている場合には、ノズルが詰まりやすくなることがありますので、必要であれば本装置の前に水処理装置を設置してください。

湿度センサー：

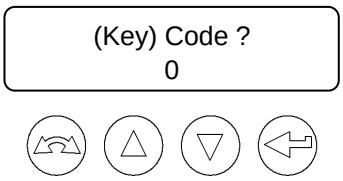
湿度センサーを定期的に、もしくは必要であれば上部のネジを開けフィルター部分を分解し圧縮空気で清掃して下さい。フィルターが汚れるとセンサーの感度が落ちる可能性があります。

6. プログラムの設定変更

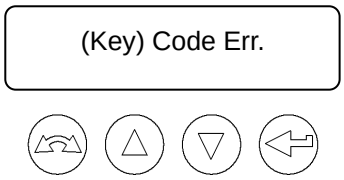
設定変更モード

設定変更モードの画面に入るには⇔キーを押してパスワードを入力後、←キーを押します。⇔キーを押すことによっていつでも通常運転画面に戻ることができます。一定時間キーが押されなかった場合はもう一度通常運転画面に戻ります。

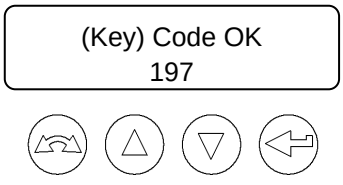
設定変更モードはパスワードで保護されています。画面には以下の通り表示されます。



工場出荷の際、パスワードは１９７に設定されています。△または▽でパスワード１９７を入力し、←キーを押して確定します。パスワードが正しくない場合は画面に以下のように表示されます。



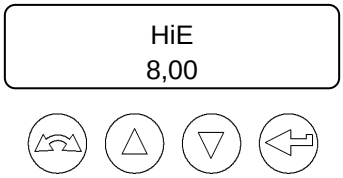
パスワードが正しい場合は以下のように表示されます。



パスワードは変更しないでください。

最大入力電圧　　HiE

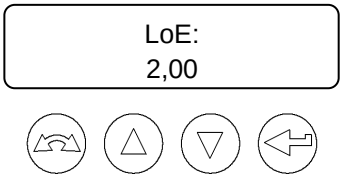
湿度センサーからコントローラーへの最大入力電圧です。入力電圧がこの値を超えると画面にエラー「ＥＥ」が表示されます。



△または▽キーで設定します。←キーを押して入力値を保存し、次の設定画面へ移ります。

最小入力電圧　　LoE

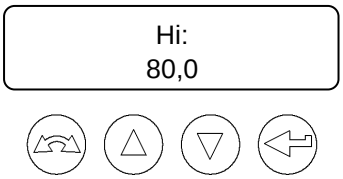
湿度センサーからコントローラーへの最小入力電圧です。入力電圧がこの値を下回ると画面にエラー「－ＥＥ」が表示されます。



△または▽キーで設定します。←キーを押して入力値を保存し、次の設定画面へ移ります。

最高表示湿度　　Hi

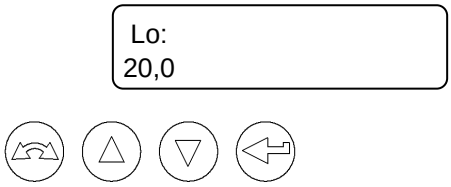
上述の最大電圧「HiＥ」を検知したときの表示湿度です。つまり、HiE の入力があったときに何%の湿度を表示するかを変更することができます。主に校正（キャリブレーション）の際に利用され、＋－１０％まで調整することができます。



△または▽キーで設定します。←キーを押して入力値を保存し、次の設定画面へ移ります。

最低表示湿度　　Lo

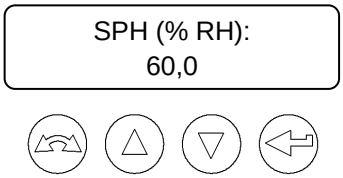
上述の最小電圧「LoE」を検知したときの表示湿度です。つまり、LoE の入力があったときに何%の湿度を表示するかを変更することができます。



△または▽キーで設定します。←キーを押して入力値を保存し、次の設定画面へ移ります。

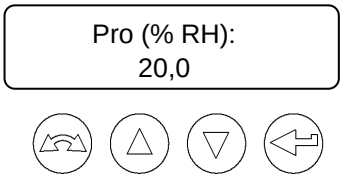
最大セットポイント　　SPH

ポンプユニットはこの SPH の値近辺に湿度を保つよう自動制御します。



△または▽キーで設定します。←キーを押して入力値を保存し、次の設定画面へ移ります。

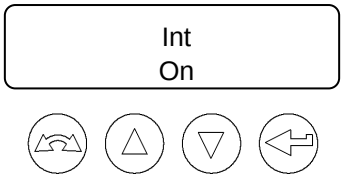
プロポーショナルバンド　Pro



△または▽キーで設定します。←キーを押して入力値を保存し、次の設定画面へ移ります。

インテグレーション　　Int

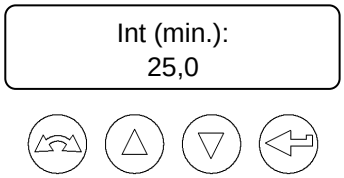
On・Off の設定



△または▽キーで設定します。←キーを押して入力値を保存し、次の設定画面へ移ります。

インテグレーション　　Int (Min.)

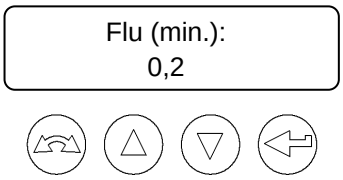
インテグレーション機能作動開始時間です。（単位：分）



△または▽キーで設定します。←キーを押して入力値を保存し、次の設定画面へ移ります。

フラッシング　　Flu (Min.)

次の設定は、フラッシング（＝強制排水）タイムです。（単位：分）

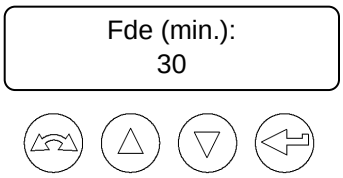


△または▽キーで設定します。←キーを押して入力値を保存し、次の設定画面へ移ります。

フラッシング　　Fde (Min.)

フラッシングタイムのインターバルです。（単位：分）

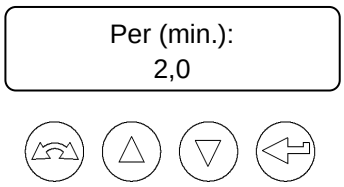
設定した時間内に噴霧が無ければ、先で設定した一定時間フラッシング機能が作動します。



△または▽キーで設定します。←キーを押して入力値を保存し、次の設定画面へ移ります。

ピリオドタイム　Per (Min.)

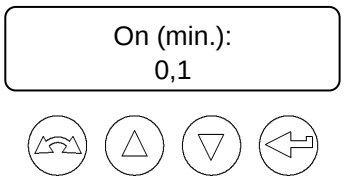
（単位：分）



△または▽キーで設定します。←キーを押して入力値を保存し、次の設定画面へ移ります。

ポンプ最低 On　 On (Min.)

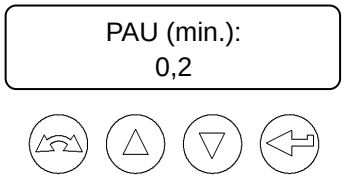
ハイプレッシャーポンプが連続稼動する最低時間です。（単位：分）



△または▽キーで設定します。←キーを押して入力値を保存し、次の設定画面へ移ります。

ポンプ最低 Off　PAU (Min.)

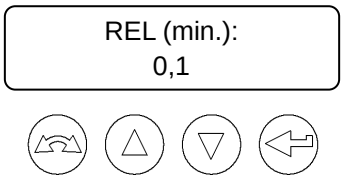
ピリオドタイム内のハイプレッシャーポンプ最低停止時間です。（単位：分）



△または▽キーでポンプ最低停止時間を設定します。←キーを押して入力値を保存し、次の設定画面へ移ります。ポンプ連続稼動最低時間と最低停止時間がピリオドタイムを超えた場合は画面に On＋Pau＞Per エラー報告が表示されます。設定値を変更してください。

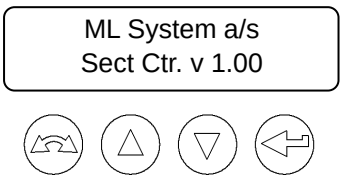
圧力リリース　　REL (Min.)

圧力リリースバルブの開口時間です。（単位：分）



△または▽キーを押して圧力リリースバルブの開口時間を設定します。←キーを押して入力値を保存します。これで最後の設定が終わり、通常運転に戻ります

通常運転に戻るまでの約２秒間、下の画面が表示されます。



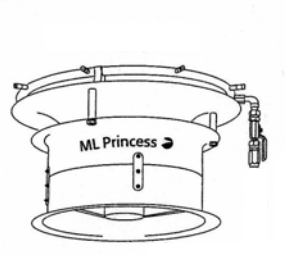
設定項目と設定値:

設定項目／設定値	出荷時 初期設定	特殊設定	最低入力値	最大入力値	単位
パスワード	197		0	999	
最大入力電圧 'HiE'	8,00 (9,73 v. mA)		0,00	14,00	VDC
最小入力電圧 'LoE'	2,00 (4,17 v. mA)		0,00	14,00	VDC
最高表示湿度 'Hi'	80,0		0,0	140,0	
最低表示湿度 'Lo'	20,0		0,0	140,0	
最大セットポイント 'SPH'	60,0		0,0	100,0	% RH
プロポーショナルバンド 'Pro'	20,0		0,0	100,0	% RH
インテグレーション 'Int'	On		On/Off	On/Off	
インテグレーションタイム 'Int'	25,0		5,0	25,0	Min.
フラッシングタイム 'Flu'	0,2		0,0	5,0	Min.
フラッシングインターバル 'Fde'	30		10	250	Min.
ピリオドタイム 'Per'	2,0		1,0	9,9	Min.
ポンプ最低 On 'On'	0,1		0,1	4,9	Min.
ポンプ最低 Off 'PAU'	0,2		0,1	4,9	Min.
圧力リリース 'REL'	0,1		0,0	1,0	Min.

7. 加湿ユニット　テクニカルデータ

レボリューションファン

重量	6 kg
電圧	200〜240 VAC
高さ	275 mm
直径	540 mm
ボディ材質	**アルミ**
運転圧力	35〜60 bar
ノズル	1.5 L/h ・ 2.5 L/h (x8)
加湿容量	12 L/h 〜 20 L/h



ツインノズルファン

重量	1.2 kg
電圧	200〜240 VAC
寸法 (LxWxH)	160 x 120 x 120 mm
ボディ材質	**鉄**
運転圧力	35〜60 bar
ノズル	1.5 L/h ・ 2.5 L/h (x2)
加湿容量	3 L/h 〜 5 L/h

8. ＵＶランプ

本装置のＵＶシステムは、使用後１年を過ぎると交換を知らせるアラームを鳴らします。十分な殺菌効果を得るために、定期的に内部のランプを交換してください。

8.1. ディスプレイの表示

通常はランプの交換までの残日数が表示されます。交換時期がきた場合はアラームが鳴り、画面には "A3" と表示されます。ランプが切れた場合は、画面には何も表示されなくなります。

アラームを一時的に解除したい場合は、
バラスト側面のスイッチを押してください。

8.2. UV ランプを交換する

ＵＶの光を直視すると、皮膚や目に深刻な影響を与えることがあります。
交換作業を行う際は必ず装置の電源を切って下さい。

ＵＶライトチューブのガラスの部分は素手で触らないでください。

【 手順 】

① 本装置の電源を切り、給水を止めてください。

② ＵＶライトコネクター部の固定クリップを引き抜いてください。

③ 真上にある程度引き抜き、ＵＶランプをコネクターからはずしてください。

④ 新しいランプを装着してください。

⑤ 本装置後部のＵＶ電源バラスト側面のスイッチを押しながら、電源を入れてください。約５秒後、ブザーの音が聞こえたらスイッチから手を放してください。

****

ポンプステーションとＵＶランプの型式

ポンプユニット	ＵＶランプ型式
SFH-100 シリーズ	Ｓ２１２ＲＬ
SFH-300 シリーズ	Ｓ３３０ＲＬ

お求めの際は弊社営業所にご連絡下さい。

無料修理規定

1.保証の内容

製品を構成する純正部品に、材料又は製造上の不都合が生じた場合、この保証書に示す期間と条件に従って、無償修理致します。(以下この無償修理を保証修理といいます。)
保証修理は部品の交換、あるいは補修により行います。また、取り外した不都合部品はスーパー工業㈱の所有となります。

2.保証期間

保証修理の受けられる期間は製品を引き渡した日より起算し、一年間以内といたします。

3.保証できない事項

(1) 次に示すものに起因する不具合は保証修理致しません。

① 弊社の「取扱説明書」に示す正しい取扱い操作や日常・定期点検方法・禁止事項・保管方法を守らず、それが原因で生じた故障と認められた場合。
② 弊社が示す使用の限度を越える使用。
③ 弊社が認めていない改造又は変更。
④ 純正部品及び指定している油脂類(潤滑油・燃料油等)以外の使用。
⑤ 経時変化による自然変色発錆。
⑥ 機能上に影響のない単なる感覚的現象(音・振動・外観上の軽微な傷等)
⑦ 天災・地変による損傷。
⑧ 弊社以外で修理され、それが原因で生じた故障と認められた場合。
⑨ アスベストや危険粉塵を含む環境や、放射線に被曝した恐れのある環境等で使用もしくは保管された機械は、修理者の健康を害する恐れがある為、修理はお受けできません。

(2) 次に示すものの費用は負担いたしません。

① 損傷部品を紛失された場合の修理費用。
② 不具合による休業保証・レンタル料・電話代等二次的損失。
③ 下記に示す消耗部品及び油脂類等。
各フィルタエレメント・ランプ・計器類・ノズル・パッキン・ゴムホース・シール等及びこれに類する消耗部品 。

＜ご注意＞

保証の請求には、必ず本証書をご提示ください。ご提示なき場合は保証しかねる場合があります。

ご使用の前に取扱説明書をよく読んでください。

※アスベストや危険粉塵を含む環境や放射線に被爆したおそれのある環境で使用もしくは保管された機械は、修理者の健康を害するおそれがあるため、修理はお受けできません。

わからない事や、故障したら

●ご使用のスーパーフォグヒューミディティについてわからない事や故障が生じた時に、次の事を確認の上、販売店又は、弊社までお問い合わせください。

（1）型式名と機番　　（2）ご使用状況（どんな時に）　　（3）ご使用時間

（4）故障状況（水を吸わない、圧力が上がらない、モータが始動しない等）

スーパーフォグヒューミディティ
保　証　書

このたびはスーパーフォグヒューミディティをお買い上げいただきまして、ありがとうございました。
下記記載の製品について本書記載内容（26 ページ記載）で保証いたします。なお、この
保証書は日本国内で使用される場合に適用いたします。

機種・品番		**SFH-100 / SFH-300**
保証期間		**製品引渡し日より起算し１年間**
納入年月日		**平成　　年　　月　　日**
お客様	**ご住所**	
	お名前	
	電話番号	
納入店名	**住所・店名** **電話　　(　　)**	

memo

memo

スーパー工業株式会社

本社・大阪営業所　大阪府摂津市鳥飼本町５丁目 3-7
〒566-0052　TEL(072)653-2721　FAX(072)653-2354

大　阪　工　場　大阪府摂津市鳥飼本町２丁目 2-48
〒566-0052　TEL(072)654-3990　FAX(072)653-2912

東 京 営 業 所　東京都江戸川区中央４丁目 15-13
〒132-0021　TEL(03)3653-2411　FAX(03)3653-2420

名古屋営業所　愛知県名古屋市緑区野末町 208
〒458-0915　TEL(052)626-3701　FAX(052)626-3702

札 幌 営 業 所　札幌市白石区菊水７条１丁目 1-24
〒003-0807　TEL(011)823-3661　FAX(011)823-3666

福 岡 営 業 所　福岡県粕屋郡志免町大字別府 599-3
〒811-2205　TEL(092)622-6273　FAX(092)622-6279

サービス工場　大阪府摂津市鳥飼本町５丁目 1-7
〒566-0052　TEL(072)653-2721　FAX(072)653-2354

沖 縄 駐 在 所　沖縄県那覇市首里当蔵町 1-18-3
〒903-0812　TEL(098)887-0089　FAX(098)887-0089

http://www.super-ace.co.jp　E-mail:info@super-ace.co.jp